

卒業を迎えて

准看護学科第 64 期生 工藤 輝

私が入学したきっかけは、「患者様に常に寄り添いながらも的確に判断し、不安を抱える気持ちを丁寧に受け止め、安心できる」と思わせてくれる看護師さんに出会ったからです。私もそのような人になりたいと思い、准看護師を目指しました。

入学してからは、カリキュラムの量や難しい専門的な医療用語が多く、驚きと、これからやっていけるのかという不安がありました。また、課題や終講試験も多く、仕事との両立に悩むこともありましたが、同じく看護師を目指すクラスの仲間、先生方の支えもあり、最後までやり遂げることが出来ました。

基礎看護実習では、実際に患者様とコミュニケーションを図ることは難しく、患者様の気持ちを汲むことや、傾聴の大切さを学ぶことが出来ました。

各論実習では、患者様の疾患や状態、生活背景をとらえ、看護援助に繋げていくことが難しく、患者様には今、何が必要なのか、どんな看護援助をするべきなのか全体像を把握し、改めて考えることが大切だと学ぶことが出来ました。患者様とのコミュニケーションだけではなく、実習担当の指導者さんや先生、メンバーからの助言や、相談することで個別の援助を導くことが出来ました。このことから、チームでもコミュニケーションを図ることが重要だと再認識することが出来ました。患者様から「ありがとう。勉強大変だと思うけど頑張っ!!」と笑顔で言葉を頂くことは励みとなり、卒業を迎えるまで学業と仕事の両立ができたと感謝しています。また、実習中、体調を崩してしまい、患者様にご心配やご迷惑かけてしまいました。看護師として、体調管理は基本であり、しっかり整えていくことを心掛けていきたいと考えています。

先生方からは知識や技術だけではなく、患者様に向き合う姿勢や、患者様の立場で考える大切さを学びました。実習時は看護援助など、うまくできなくて、落ち込んだり迷ってしまった際には、先生の言葉や指導に何度も救われました。時には厳しい反面、いつも温かく見守ってくださり、生徒のことを一番に考えてくださったことに心から感謝しています。



卒業後は、准看護師として働きながら知識と技術を積み、患者様から“この人に頼りたい”“この人なら安心”と思ってもらえるような正看護師を目指します。

この学校で学んだことに誇りを持ち、私たち64期生が最後の卒業生になることを胸に強く刻み、歩んでいきます。